

めいこう

命 洗

学園通信 MEIKO
第7号
2007 June

n-bio 学校法人 関西文理総合学園
長浜バイオ大学
Nagahama Institute of Bio-Science and Technology
〒526-0829 滋賀県長浜市田村町1266番地
TEL.0749-64-8100(代) FAX.0749-64-8140
E-mail:jim@nagahama-i-bio.ac.jp
URL:http://www.nagahama-i-bio.ac.jp/



特集 未来に翔たく、本学初の卒業生たち —— 一期生の卒業、進路特集 ——

▲夢に向かって！卒業生による角帽投げ

- Campus News Clip 2
- 新しい学部長と研究科長
新学部長・三輪正直先生にさく 4
新研究科長・池上 晋先生にさく 5
- 清水信義先生が本学の特別招聘教授に
新任教員の紹介
- 一期生の卒業式特集 6
卒業生座談会、フォトアルバム卒業式&祝賀会
- 学園だより 9
- 一期生の就活成果と二期生の取り組み状況 10
- 学生生活トピックス
国際交流ハウスの親睦会開催 12
クラブ・サークル活動から 13
- 産官学共同研究・事業開発センターだより 14
- 研究室訪問⑧ 15
池村淑道教授
- 入試・募集掲示板、リレーエッセイ 16

「命洗（めいこう）」とは

命洗とは、命が水のように沸き立ちきらめくさま。学園祭の名称として学生が命名しました。

昨年度は、大学完成年次を成功裏に終えて、本学発展の礎を築くことができました。教員配置や実験・実習機器の導入も完了し、この春には大学院も開設されて、本格的な研究活動がスタートを切っています。

今年度は、本学発展の第二次中期ビジョンの検討も始まり、「バイオの単科大学」としての本格的な発展に向けての事業を開始する年次となっております。

3月に集立った一期生たちの就活と大学院への進学実績は、在校生たちにも自信を与えるものとなり、キャンパスは益々活気溢れるものとなっております。

本学初の卒業生たちが 巣立った卒業式

3月17日、本学体育館において、本学初の卒業生となる1期生274人の卒業証書・学位記授与式が行われました。当日は卒業生の保護者、地元長浜市を始めとした各界の代表など多くの来賓とともに、卒業生の門出を祝いました。

下西学長は式辞で、「1期生のみさんに対しての教職員の思いは大きく、この4年間の成長を見守り続けてきました。単に4年の歳月と言うことではなく、先輩もいない中、1期生としての自覚、新しい学風を形成していく中で本当に成長されたと思います」「本学で学んだこと、身につけたこと、そして考えたことをこれからの社会の場で大いに役立て、更なる向上を目指して研鑽し、新しい時代を創造し社会に貢献する気概を持って進まれることを願います」と、卒業生を激励しました。

卒業生を代表して久保晴子さんが下西学長より学位記を受けたのに続いて、吉田理事長が「ここで学んだ専門の知識と技術に一層磨きをかけて共に、人間力を鍛えていただきたい」とお祝いの言葉を送りました。川島長浜市長代理の加藤助役による祝辞、脇本浩史さんによる在校生の送辞に続いて、卒業生を代表して岡崎瞳さんが



三輪学部長より花束を受ける新入生代表

◆大学と大学院が合同で行った最初の入学式

4月1日、第5期学部新入生245人及び大学院第1期生となる33人を迎え、入学式を行いました。下西学長の式辞のあと、学部新入生を代表して久保田祥太さんが、「初の卒業生を送り出し、新たな出発の年に私たち5期生は、豊かな教養と確かな技術、また正しい倫理観を養って、更に大

◆地元の期待を集める大学院棟の竣工式を開催

3月28日に大学、地元、建設等関係者参列のもと、竣工式を執り行いました。大学院棟の「命北館」は、研究棟となっている「命岳館」の北側に隣接し、鉄筋コンクリート5階建て延べ約2470平方メートル。研究室、教員室、セミナー室など30室があります。竣工式では吉田理事長が



あいさつをする 吉田理事長

「開学当初の目標だった大学院設置が達成できた。バイオ分野での優秀な人材を育成し、隣接するバイオサイエンスパークの実現に寄与したい」とあいさつ、長浜市長をはじめ、滋賀県湖北振興局長や地元政経界の代表からも祝辞や期待の言葉をいただきました。

◆朝日新聞社「大学ランキング」で本学が高い評価

朝日新聞社発行「大学ランキング2008」が今年も発行されました。研究活動に対しての文部科学省と日本学術振興財団による教員一人当たりの科学研究費補助金の額では、新設大学(1997年〜2006年度に設立)の中、昨年同様全国1位、また全体でも14位と大健闘。科学研究費は大学の研究力を示す重要な指標とも言われ、本学の研究が社会的にも評価が高いことが伺われます。

また、2006年度の本学就職率決定率98%という大きな成果を挙げることができたことは、就職支援職員1人当たり学年定員(49・5人)という新設大学中でも14位のデータからも、本学の就職・キャリア教育のきめ細やかな

サポート力を裏付けています。



朝日新聞社発行の「大学ランキング」

答辞を読み上げ、挑戦という4年間の学生生活を振り返りながら新しい門出の決意を表明しました。

式終了後には体育館の前で、学生生活のシンボルの角帽を、全員で青空に向かって投げ上げ、社会に巣立つ喜びをあらわしました。



学生生活を締めくくる全員写真

地域と大学

●曳山まつりに参加

毎年4月15日を中心に、地元長浜で行われる曳山まつりに本学の学生も曳き手として、この祭りに参加しています。曳山祭りは塗りや飾り金具、幕などで飾られた絢爛豪華な曳山とその舞台上で演じられる子供歌舞伎が見所です。

今年は大正6年以来、90年ぶりに長浜八幡宮に全山が勢揃いする、地元にとっては、貴重な年。本学の学生も壽山と諫鼓山を曳くことで、長浜の伝統文化にもふれる貴重な体験となりました。



▲山を曳く本学の学生たち

●長浜サイエンスパーク 環境保全委員会が発足

この委員会は本学および長浜バイオインキュベーションセンターが立地する長浜サイエンスパークの良好な環境の保全を協議することを目的とし発足したもので、大学や長浜市、自治会の代表などで構成されています。第1回目の会合が本学で開かれ、その後、委員の方々は新しく建った大学院棟を見学されました。

2007年度の本学スケジュールについて

【前期】	【後期】
7月13日 前期授業終了	10月1日～ 後期授業開始
7月19日～27日 前期定期試験期間	11月3日～4日 学園祭「命洗祭」
8月1日～9月30日 夏期休暇期間	12月22日～1月10日 冬期休暇期間
※夏期休暇中に、3回生希望者対象にインターンシップ実習を実施します。	1月28日 後期授業終了
	1月31日～2月8日 後期定期試験期間
	2月9日～ 春期休暇開始
	3月15日 第2回卒業式

新学部長 三輪正直先生にきく 大学完成年次を終えて、 次のステップへの抱負

開学から卒業生を輩出するまでの1サイクルを終えて、本学は一つの節目を迎えました。大学開学からの4年間の成果や、今後取り組むべき課題について、今年度から学部長に就任した三輪先生に伺いました。

初期目標は達成、総合的に評価

大学開学当初の構想と照らし合わせてみて、第一段階での目標は達成したと考えております。具体的には、まず人材育成面では、実験や実習などの実践的教育を中心に行うことで、豊かな人間性が身につく、第一期生の就職率がほぼ100%という実績からもわかるように、社会に高く評価される人材を養成で



抱負を語る三輪新学部長

きたと思っています。また、産官学連携面では、バイオの専門家による講義の積極的な開催や、学内ベンチャー企業の立ち上げなど、強力な連携体制を実現することができました。周囲の反響も大きく、貴重な一歩を踏み出したと感じております。さらに、本学の教員一人あたりの科研費が新設の理学系の大学で1位となり(朝日新聞社発行「大学ランキング2008」より)、高度な実験機械を設置するなど、より研究に取り組みやすい環境を整備することができたと言えます。

次へのステップとして検討している内容は

今後大切になるのは、本学が小規模ながらもユニークな大学であるかを評価されることです。少子化が叫ばれるなか、この1、2年の間に増えたバイオを学ぶ学部や学科を開設する他大学との差別化をどこに持ってくるかが鍵になるでしょう。そういう意味では、本学で、バイオ産業をリードするであろうバイオインフォマティクスを専門的に学べることは大きなポイントとなるでしょう。バイオインフォマティクスは、ウエットサイエンスでも欠かせない技術であり、それを身につけた高度なテクノシヤンを育てる環境をより充実させ、アピールしていきたいと思っています。また、教員同士の連携強化にも期待します。異なる専門分野を持った教員が非常に近い距離に



いるのは大きなメリットです。より強固なタテ・ヨコの関係を築き、新しいものを作り出していきたいと考えております。

新学部長としての今後の展望とは

長浜バイオ大学が、今後どのような評価を受けるか。それは、大学が背負う幾つかの「宿題事項」に、いかにして取り組むかにかかっています。例えば、研究室配属時期の早期化や、教員が他の教員の授業を聞くなどして組織的に授業の向上を図る「ファカルティ・デベロップメント」の実施、教員による中学・高校への出張模擬授業、理科の教員免許取得のためのシステム改定などは、テスト的に実施する価値のあるものだと考えています。学生が「この大学に入学してよかった」と思えるよう、ごちんまりとしたユニークな大学という面で、教育研究における「ONLY ONE」を目指したいと思っています。

新研究科長 池上晋先生にきく 開設した大学院の特色と 今後の展望

本学で初めてとなる卒業生の送り出しに合わせて、この春から大学院を開設しました。バイオサイエンスの最前線での研究に寄与する研究者の養成に向けた目標や今後の抱負について、研究科長に就任された池上先生に伺いました。

大学院の特長と目指す人材育成のビジョン

長浜バイオ大学大学院は、基礎となる学部がバイオサイエンス学科の1学科構成であることに合わせて、「バイオサイエンス研究科」「バイオサイエンス専攻」の1研究科1専攻です。学部での教学を基礎として、生命現象の探求と人類社会の進歩・発展への貢献、創造性と戦略性を兼ね備えたバイオ技術者



展望を語る池上研究科長

の育成を目指すことを目的としています。具体的には、学部段階の「遺伝子生命科学」「分子生命科学」「細胞生命科学」「生命情報科学」「環境生命科学」の5つのコースを、「バイオ情報科学」「バイオ機能科学」「バイオ環境科学」の3つの領域に融合編成して、高度な専門教育を展開します。

また、個別の専門知識を社会で活用できるように、バイオ・ビジネス共通科目を配置しているのも特徴のひとつです。自分で得た知識をどこに引き出しに入れたらよいかを理解し、バイオサイエンス教育を技術としていかに社会に役立たせるかを考えられる人材の育成を目指したいと考えております。

学部との連携をどのように行っていくか

大学院入学後、学生の研究テーマに基づいて編成された複数教員指導体制の下で研究指導を進めます。これは、大学院研究科教員の責任のもとで、学部の教員と共同で指導を行うことにより指導内容の偏り・欠落を防ぎ、バイオサイエンス全体をカバーできるようにするためですが、研究領域を重ね合わせることで新しい研究での発展も期待できます。また、院生の希望者には、学部1〜3年次の実験・情報実習のTA(ティーチングアシスタント)を経験してもらいます。学部生の指導補助を経験することで、自分自身の知識を豊

新研究科長としての展望と学生への期待

富にする貴重な場になると考えています。こうした仕組みを働かせることによってバイオサイエンス教育研究の一体化を図ります。

バイオ研究の成果は今後、生涯にわたる個人の生活、人の生き方すべてに関わってきます。この時代に、バイオサイエンスを研究することは、今後の世界にとって最も重要な知識を拡げることにも他なりません。世界中で議論されている環境保全問題にしても、主体となる生命系のあり方についても、まだ誰も明確な答えを出していないことからわかるように、バイオは未知の世界、つまり、一生のテーマなのです。大学院に進んだ皆さんには、「バイオサイエンス」生きること何かに、について改めて考え、恵まれた環境に甘え、受け身になることなく、生きにくい時代の中の課題を見つけてほしいと思っております。



ヒトゲノム解読の 第一人者・清水先生が 本学の特別招聘教授 に着任

清水先生は、慶應義塾大学のチームを率いて、1999年12月にヒトの22番染色体のゲノムを世界で初めて解読し、207個の遺伝子を発見。翌2000年5月に21番染色体の解読を終了して1300個の遺伝子を発見するなど、ヒトゲノム解読の第一人者として広く知られています。本学の研究水準のアップと講義にも大いに期待が高まります。



特別招聘教授 清水 信義

- 理学博士(名古屋大学)
- 名古屋大学大学院理学研究科博士課程修了
- アリソナ大学分子細胞生物学科教授、慶應義塾大学医学部教授を歴任。
- アリソナ大学(米国) 客員教授、中国医科大学(中国) 名誉教授。
- 【専門分野】ゲノム科学、分子細胞生物学、ヒト遺伝学、疾患データベース

新任教員の紹介

新年度より、新たに4人の専任教員の方が着任しました。バイオ・ビジネスや英語教育の強化など、本学のカリキュラム改革に沿った新任の先生たちです。よろしくお願いたします。



教授 松島 三兒
● 修士(経済学)(埼玉大学)- 東京大学農学部農芸化学科卒、埼玉大学大学院経済科学研究科博士前期課程修了
- 日本専売公社中央研究所研究技術員、JT bioecon USAJCO 副社長、日本たばこ産業株アグリ事業部長、経営戦略部長を歴任
- 【専門分野】 バイオビジネス



准教授 立花 千尋
● 博士(学術)(神戸大学)- 神戸大学大学院総合人間科学研究科人間形成科学専攻博士後期課程修了
- 附属中学校英語教師、神戸大学講師を経て本学へ
- 【専門分野】 英語教育、人間形成科学



講師 佐々木 真一
● 博士(理学)(大阪大学)- 大阪大学大学院基礎工学研究科化学系博士後期課程修了
- 慶應義塾大学理工学部応用化学科助手、立命館大学理工学部助手を経て本学へ
- 【専門分野】 有機合成化学、生物有機化学、分析化学



助教 阿部 貴志
● 博士(理学)(山形大学大学院)- 山形大学大学院理工学研究科博士前期課程電子情報工学専攻修了
- 協和発酵工業(株) (株)ゲナシエン研究員、国立遺伝学研究所生命情報・DOBセンター助手を経て本学へ
- 【専門分野】 ゲノム情報科学

浅瀬 優さん
（アストロセネカ株）、細胞生命科学コース、京都・京都女子高校出身）
井上 麻衣さん
（武田薬品工業株）、分子生命科学コース、大阪・三島高校出身）
大久保泰宏さん
（キッセイ薬品工業株）、遺伝子生命科学コース、愛知・愛知高校出身）
西村 雅春さん
（武田薬品工業株）、遺伝子生命科学コース、滋賀・比叡山高校出身）
野口 和良さん
（東京大学大学院新領域創成科学研究科 生命情報科学コース、大阪・高津高校出身）
三木 祐治さん
（関西オートメ機器株）、環境生命科学コース、大阪・箕面高校出身）

★はじめに、自己紹介を兼ねた近況などをお話ください。

西村 武田薬品工業に入社、医薬品の種となるヒット・リード化合物の探索を目的とするスクリーニングGに所属して、初期段階での化合物の毒性を検討する初期毒性を担当しています。上司や先輩の方々に指導いただきながら、医薬品の知識を広め、実験技術を向上させています。
井上 同じく武田薬品工業で、研究技術職として働いています。現在は先輩に教わりながら、薬の開発に向けた研究に励んでいます。



浅瀬 私は、アストロセネカに入社、今は三田市にある研修所で、製品知識のインプットやプレゼンテーション、医師とのロールプレイのスキル習得など立派なMRになるための勉強をしています。
大久保 キッセイ薬品工業に入社し、現在は、茨城県にある研修施設

で、専門用語や実験技術の話題が出る場合があります。そういった時に、守備範囲の広い人材であると受け止められていて、注目されていると感じます。



野口 やはり新設大学ということで、バイオ大の実習内容等に興味を持たれているように感じます。大学院の試験で面接を受けた時ですが、専攻の先生方がバイオ大に興味津々だったらしく、バイオ大についての事や、バイオ大でのような事を学んだのか等、他の受験生に比べてずっと多くの質問をされました。

浅瀬 人事の方とお話したときに「昨年(自分が就職活動していた時)よりエントリー数が増えたよ。大学でいろいろ案内してくれてありがたい」と言っていたことが嬉しかったんです。自分に続いて、後輩も入社することを期待していただいていると感じることができました。

★改めてバイオ大での4年間を振り返ってみて、印象に残っていることや、他大学に比べて誇って良いと感じていることは何ですか？

西村 1回生の頃から、実験に触れる機会を多く与えられたことは、非常に良かったと思います。いろいろな実験技術に対する理解が深まりました。また、他大学に比べて早い段階で、より専門的な実験技術を扱えることができたことは、誇って

でMR試験の勉強をしています。週に3回程アストがあるので、前日は明るくなるまで勉強していることも珍しくありませんが、土日には東京へ行ったり、同僚と飲み会したりと、わりと充実した生活を送っています。

三木 関西オートメ機器に入社、開発課に所属して、マイクロパブルという微細な気泡を使った新しい技術を開発しています。現在は、展示会などにマイクロパブル発生装置を出展し、新技術の可能性をアピールしているところです。

野口 私は、東京大学大学院新領域創成科学研究科・情報生命科学専攻に進学しました。研究室は、かずさDNA研究所の植物ゲノム情報研究室に所属して、今後、植物のゲノムアノテーション等を行う予定です。

★職場や大学院ではまだ2カ月ほどしか経っていないのですが、後輩たちへのアドバイスの意味で、学

良いと感じるところです。

浅瀬 1回生からの内容の濃い実習をさせてもらい、様々な実験技術を習得することができました。その集大成として卒業研究も1年かけてじっくり取り組むことができました。今このようにして頑張れるのは、大学時代の経験があるからだと感じています。

大久保 学生と教員の方々の距離が非常に近いのも印象に残っています。他の大学の方の話聞いてもここまで近い距離にはいなかったように感じ、ここは誇れる所であり、ぜひ残していってほしい所です。
三木 やはり生物の実験が非常に豊富だということです。開発の仕事や展示会でお客さんの話を直接聞くことがあるのですが、生物を扱う関係の人の話が簡単にイメージできたりします。

野口 生命情報分野の教育を取り入れているところだと思います。情報技術を用いて生命を解明するバイオインフォマティクスはまだ新しい分野ですが、日進月歩で発展しており、今後生命科学をリードしていく存在になることが期待されています。にもかかわらず、この分野の教育拠点は不足しているのが現状です。ですから、他大学に先駆けてバイオインフォマティクスの教育に力を入れているバイオ大は、非常に優れた大学であると言って良いと思います。

★最後に、後輩たちへのメッセージ

生時代と一番違うなと感じるのはどんなことでしょうか？

大久保 一番違うと思うのは自由な時間です。大学時代に比べて、自由な時間は当然少なくなりま。また、休み等もまとまるとれることも少ないと思うので、今の大学での自由な時間を十分楽しんで下さい。

井上 そうですね、やる時はやるという時間に対するメリハリがあります。1日の仕事時間は限られており、毎日があつという間に過ぎていきます。その中でいかに効率よく仕事をやるか仕事の出るも変わってきます。



三木 仕事に打ち込む時間が長いですが、会社で勤・終業時間が決まっており、遅刻など時間にルーズは許されません。終業時間の定時は5時や5時半ですが、帰るのは大抵8、9時以降になります。またうちの会社は隔週で土曜日も出勤です。その辺りの甘えは会社に入る前に捨てておいた方がいいです。

西村 結果と責任がより強く求められるのも大きな違いです。同時に、この二つの要素を満たすためには、幅広いコミュニケーション能力が必要不可欠なものになってきます。この点に関しても、学生時代ときよりも強く求められてきます。社会人とは何かを考えてみるのも、いい勉強になるかもしれません。

ジとして、就職活動や大学院進学に向けてこれだけは押さえておこうというアドバイスをお願いします。

浅瀬 私が大切にしていたことは、できるだけ自分でいろんな会社を見ることです。そうすることで、インターネットや就職本からは得られなかつた情報が手に入りますし、会社の雰囲気や自分に合うかどうか分かってきます。だから面倒だと思わないうで、たくさん説明会に参加してください。そうすればきっと、自分がここで働きたいと思う会社に出会えると思います。

野口 なるべく早いうちから目的をもった行動や、情報収集を行なった方がよいと思います。やりたいことや明確な目標が見つければ、勉強も非常にやりやすくなります。サークル活動など勉強以外のことも含め、学部時代に学んだことは、進学あるいは就職後に必ず生きてくると思います。

三木 僕は推薦で早くに今の会社に決まったので、あまり就職活動をやつてはいなかったのですが、どの会社に行くにしても社会人として世の中に出るといふことをしっかり認識しておいた方がいいと思います。



大久保 いろいろな経験をした方がいいと思います。学生時代しかできない無茶なこと、例えば、自転車で琵琶湖一周をしたり、車で北海

浅瀬 やはりお給料をいただいているという点で心構えが変わったと思います。一日の拘束時間が長上に、勉強量も学生の時とは比較できないほどの量を吸収しないといけないので、なかなか自分の時間が取れません。学生のうちに自分が興味ある事にどんなチャレンジしておくことが大切だと思います。

★みなさんは初のバイオ大学の卒業生ですが、職場や大学院でそのことが注目されているなど感じることはありますか？それはどんなことで感じますか？

三木 実はマイクロパブルを使ったテーマでバイオ大と共同研究をしているのですが、それに関係する仕事や、生物が関係するテーマで開発の仕事を進めるときに、上司の方が僕の意見を聞いてくれることです。



井上 バイオに特化した大学だと注目されています。どのようなことを学び、どのような実験をやってきたのかという質問をよくされます。それらの知識と技術を基にさらに成長していくことを大いに期待されています。このことは就職後だけではなく、面接の場でもよく質問されました。

西村 バイオ大では幅広い分野を学ぶので、大体の知識・実験操作を習得しているのだと受け止められています。職場での日々の生活の中で道を一周したり、等。面接、エントリーシートの中のいいネタにもなります。結構そうゆう無茶な話の方が面接で盛り上がりやすくなるかも知れません。



井上 自分のしたいことが仕事になるといふことは、仕事をしていく上で一番楽しいことだと思うので、まずは自分が何をしたいのかをよく考えて就職活動に臨んでほしいです。自分のことや今までにできたことを面接相手に語れることが重要だと思います。もちろん緊張はすると思いますが、やはりコミュニケーションをとることが大切で、楽しくおしゃべりできればGOODです。

★どうもありがとうございました。

夢がカタチとなった4年間

長浜バイオ大学での学生生活を振り返って

卒業式



吹奏楽部の演奏で幕開け



卒業生代表の答辞



会場の外で祝福する在校生



晴れの日を迎えた一期生



卒業生代表に学位記の授与



在校生代表の送辞



あちこちで談笑の輪が



華やぐ北ビワコホテルグラツィエの会場



卒業生からの花束贈呈

卒業パーティー

学生生活情報

奨学金を必要とされる方へ
～日本学生支援機構奨学金のご案内～

現在、本学で案内している奨学金制度としては、日本学生支援機構奨学金があります。この奨学金は、教育の機会均等に寄与するために、経済的理由により修学に困難がある優れた学生等に対し、独立行政法人日本学生支援機構が貸与を行っている奨学金です。

本学での2007年度の新規申込については終了しましたが、家計の急変（主たる家計支持者が失職・病气・事故・会社倒産・死別又は離別・災害等）で奨学金を緊急に必要とする場合は、緊急採用（第一種・無利子）または応急採用（第二種・有利子）にて申し込む場合があります。上記理由で奨学金が必要な場合は、学生課までご相談ください。

また、昨年度より、本学在学中に海外の大学等へ短期留学を行う学生対象の貸与奨学金制度がスタートしました。種類は第二種奨学金（有利子）で、留学期間中貸与を受けることができます。詳細は学生課までお尋ねください。

なお、2008年3月卒業予定の4回生を対象に、11月頃に奨学金返還説明会を開催します。卒業後の奨学金返還についての注意事項の説明と、返還誓約書の配布および記入方法の説明を行いますので、必ず出席するようにご家族の皆様方からも是非お声をかけください。説明会の日時は、10月頃に学内掲示等でお知らせします。

フォトアルバム
卒業式&卒業
祝賀パーティ

釜慶大学との第2回日韓学生交流

韓国の釜慶大学、海洋バイオ食薬事業団との学生交流会が開催され、本学からは西先生を団長に教職員・院生・学生の12人の代表が参加しました。第1回の交流会は、昨年は本学で開催したもので、今回は2回目となります。



▲▼ あいさつと研究のプレゼンテーション



ンバイオの研究状況等を所長より説明を受けました。二日目は、国立釜慶大学へ訪問。立釜慶大学との面談の後、研究室視察。その後、釜慶大学へ移動してジョイントセミナーへ参加。今回は、新たに釜慶大学も参加して各々の研究について発表し、互いに交流を深め、終了後は研究室を視察して学生・院生同士交流を図りました。

▼NFRDIの視察



▲釜慶大学教職員との昼食会

参加者の感想

西 義介先生
院長

一衣帯水なるも遙けくも遠い国、韓国に対するステレオタイプなイメージが、胸の奥底に宿る。今回の旅は学生引率責任者と友好親善の重い使命。「冬ソナ」や「チャングムの誓い」から見えるものとは次元の違う、新たな韓国を肌で感じた3日間であった。

全員、無事帰国。我プレゼンテーションの内容は、釜慶・釜山の両大と比べても、充分に高く、学生の発表態度も良かった（ヘッドバーク先生に感謝。質疑応答が日韓の学生とも少し難しかったようだ、今後の課題。最も印象に残ったことは、昼後の宴席で、多少手荒だが、最大の歓待を受けたこと。熱いなあ韓国の人たちは！多謝。

学部生参加者
古玉 泰朗さん
（広島・広島工業大附属広島高校出身）

私は、日常の生活の中で英語を使う機会が少ないため、全て英語で進行される今回のシンポジウムに対して少なからず不安を抱えていました。しかし、実際現地でのポスターセッションの質疑応答や釜慶大学の学生との会話等、自分の英語が相手に通じた時の喜びはとて大きく、一生忘れられない思い出となりました。

交流会では、学生達と国境を越えて仲良くなりました。彼らのように英語を流暢に話す事が出来るようになりたい、もっと自分の考えを深く伝えられるようになりたいと強く実感しました。彼らとまた会える日まで、更なる努力を続けていきたいと思います。

院生参加者
川瀬 千晶さん
（バイオサイエンス研究科1回生）

釜慶大学との交流会は、私にとって非常に多くのことを学んだ貴重な体験となりました。大勢の前で、しかも英語での発表は初めてのことで、英語の苦手な私にとって、発表用のスライド、ポスター、発表用の原稿を作成するのは凄く大変でした。しかし、発表を終えた後は、反省する部分もありましたが、充実感でいっぱいでした。

また、韓国の学生との交流では、英語で会話をしていたのですが、自分の伝えたいことが上手く伝えられないという自分の語学力の無さを痛感し、英語の必要性を感じました。今後は、英語力を高めると共に今回学んだことを活かせるように頑張りたいと思います。

学園だより

4月27日に、協定先であるNURI（海洋バイオ食薬事業団）と国立釜慶大学との第2回ジョイントセミナーが韓国釜山で開催され、大学院生6名、4回生3名が派遣されました。

初日は、国立水産科学院（NFRDI）を視察。海洋都市釜山におけるマリ



▲セミナーの様子

一期生の就活成果と二期生の取り組み状況

この春卒業した一期生の先輩たちは、本学で学んだ4年間の実力が評価され、就職実績と大学院への進学実績で、予想を超える大きな成果をあげました。その成果と、今取り組まれている二期生の就活状況をご紹介します。

第一期生の就職決定率は98%!

第一期生の就職決定先企業の業種別内訳は、「別表1」に記載のとおり、医薬品関連業界の56名(31%)を筆頭に、食品関連業界の24名(13%)、IT関連業界の14名(8%)、環境・臨床検査・受託研究13名(7%)、化学11名(6%)となっています。これら上位5種の業界で、就職決定者全体の65%を占めており、本学の教育内容とも密接に関連した業界への興味・関心の高さが反映されています。その一方で、35%の学生がこれらの業界以外に就職しました。これらの結果は、バイオサイエンスの学問分野で学んだ知識を生かせる分野に幅広く目を向け、活躍の場を求めていけるよう、全学を挙げて就職活動支援に取り組んだことによりです。

本学が誇るキャリア形成支援

本学では、低回生からのキャリア形成支援に力を入れています。1、2回生時は、実験実習を中心とした教育により、専門知識・技術の習得は勿論、主体性やコミュニケーション能力も培われ、ガイダンスなどと併せて「人間力」を養成する場となります。3回生からは、実験実習を基礎とした教育はもとより、「キャリア講座」と「インターシシップ実習」を中心に重点的に取り組み、卒業後の進路を見据えてキャリア形成をさらにステップアップさせます。「キャリア講座」では、進路選択をより確実なものとするため、「働くことは？」や「ライフスタイルをどうデザインするか？」などにも焦点をあてて、経済社会や

二期生就職指導教員・植月先生に聞く

前期がないなかでの第一期生の地道な努力を評価
第一期生の就職希望者のうち、98%が希望する企業や研究機関などへの就職を果たし、社会人としての新たなスタートを切りました。大学としても就職活動は初めての経験であり、すべてが手探りという状況のなかで、このような好結果を出せたことは素晴らしい、学生一人ひとりの努力に、感謝したいと思います。

高い就職率の原動力は、きめ細かなサポート

本学では、企業説明会やキャリア講座などの開催はもちろんのこと、個別に就職相談を行うなど、就職課員、教員が学生一人ひとりに目を行き届かせた少人数大学ならではのきめ細かなサポートを実践しました。また、1年次の早い段階から実習や実験などの実践的教育を行うことにより、チームワーク、コミュニケーションの重要性を認識させると同時に、高い目的意識を持つようになりまし



3回生を対象にしたキャリア講座

た。そのあたりが社会に認められ、高い就職率につながったのではないかと考えています。

時代の変化とともに変わる企業のニーズや期待に注目

バイオの世界はまだ未成熟な重要分野であり、「学生のバイオ技術特に評価して採用する」という求人市場は、今後急速に大きくなるというのが現状と考えています。現段階では、実験・実習や学内の様々な活動などを通して培われた学生一人一人の人間力、社会への適応能力を評価していただきたいものと考えています。しかしバイオ関連業界全体の成熟に伴い、高度な専門知識を持つ動き手の需要は供給を大きく上回るものと考えておりますので、在学中だけでなく卒業後もバイオ技術の専門家として高く評価してもらえる力を身につける努力を惜しまない必要があります。今後、大学としては、バイオ専門教育以外にも、学生が自分の将来を早い時期から真剣に考え、見つめられるよう、早期のキャリア教育を充実していきたいと考えております。

二期生就職指導教員・福田先生に聞く

二期生の就職指導教員・福田先生に聞く

二期生の就職希望者は全体の6割程度となっています。一般的に、2008年卒業の新卒採用予定数の見通しは、昨年度比約20%増といわれ、引き続き企業の採用意欲が高まっています。本学においても、6月初旬現在で、昨年の同時期と比較して2倍以上の求人状況となっており、すでに65%の学生が内々定をもらっているという状況です。インターシシップの経験やキャリア講座の受講などによって、確実に自身のキャリアデザインに取り組んでいること、大学が持っている一期生の就職活動記録を、二期生がしっかりと活用している成果と言えるでしょう。



就職・キャリア相談コーナーでの相談

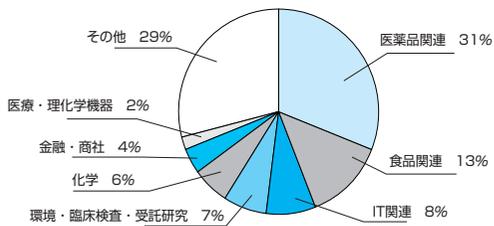
実験で培った「粘り強さ」の発揮に期待

就職指導教員としては、今後企業などを積極的にまわり、新たな求人開拓に尽力し、サポートしていきたいと考えております。本学の学生の長長でもある「真面目さ」や、実験で培った最後までやり遂げる力は、社会でも高く評価されています。学生のみならずには、求人数がアップしたからといって最後まで気を抜かず、就職活動でも粘り強さを発揮してほしいと思っています。

【別表1】就職者の業種別割合

業種	人数
医薬品関連	56
食品関連	24
IT関連	14
環境・臨床検査・受託研究	13
化学	11
金融・商社	8
医療・理化学機器	4
その他	53
合計	183

07卒生就職者業種別割合



大学院の進学においても、本学大学院はもとより、東大、京大、阪大など著名な大学院にも、希望通りに進学することができました。

大学院進学でも高い実績

就職活動の開始にあたり、まず学生全員に対して一斉面談を行います。これは、就職担当教授および就職・キャリア課職員によって、本人の希望や目標設定などを相談し、個別の支援がスタートします。本学学生は、バイオサイエンスの専門性はもとより、早期からの小集団教育を通じて、チームワークやコミュニケーション能力を養成する機会に恵まれており、高い専門性と併せて企業側から高い評価を受けています。

強力な就職活動のサポート

企業からの就職内定を得るためには、学生自らが主体的に就職活動を行って、自己決定していくことが何より重要です。そのため、本学では以下の取組を中心に、就職を希望する学生を強力にサポートしています。

国際交流ハウスの親睦会開催
長浜曳山まつりと豊公園桜見物



国際交流ハウス親睦会：長浜城天守閣をバックに記念撮影

この春から国際交流ハウス（学生寮）に入居した学生の親睦企画が4月14日（土）に行われ、新入学生、留学生、学生課職員合わせて38人が参加しました。

あいにく小雨がぱらつく天気でしたが、午前10時長浜のまちへ車でGO！。総勢38名、はぐれてはいけないので、大学ロゴの入った手作り旗を掲げ、曳山が集合する「長浜八幡宮」へ。途中、本学の

学生が威勢良くまつりの法被を羽織り、地域の方たちと一緒に山鉾を曳く場面に遭遇。みんなで見学と応援をしました。

昼食までの時間を利用して楽しい店が建ち並ぶ「黒壁スクエア」を自由散策。美味しいものがいっぱい売られていましたが、そこは昼食が準備されているので我慢してウインドショッピング中心に。でも我慢できない寮生はきつちり買い食い、「お団子、釜パン、おかきに饅頭、長浜は味の宝石箱やー」。

昼食は豊公園校の下で宴会といきたいところですが、天候が不安定なこともあり、公園隣接の長浜文化芸術会館を借りてとりました。昼食後、全員の自己紹介とユニーク質問で楽しく交流。同じ屋根で暮らしていても、みんなを知る機会がないので良い機会となり、一気に親睦が高まりました。その後、長浜城歴史博物館で歴史学習・見学。城天守閣から見る満開の桜は最高、「まるでソメイヨシノの絨毯やー」。桜を満喫し、全員で城をバックに記念撮影。春の長浜を満喫でき、寮生間の親睦も深まる企画となりました。

TEAC討論会、
今秋本学で開催



11月10日から12日の3日間、「第51回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会」が本学を会場に開催されます。これは日本化学会や日本薬学会とともに本学も共催する取り組みで、全国から研究者や関係者が参加します。討論会は、精油化学、テルペン化学、香料ニルベンに関わる生物・生体関連化学、香料科学の4つの分野のテーマに基づいて行われ、期間中に6本テーマでの講演も予定されています。アロマセラピーなどが社会的にも注目される中、関連する学術討論会で、学生は2,500円（当日3,000円）の参加費で参加できますので、多くの学生の参加が期待されます。この討論会の世話人代表は、本学環境生命科学コースの太田伸二先生が務めています。

クラブ・サークル活動の取り組みから
新入生のみなさん、ぜひうちのサークルへ！

バドミントン部

部長 松原 弘幸さん（大阪・箕面自由学園高校出身）



僕たちバドミントンサークルは部員30人で週3回、主に土曜日に活動しています。主な取り組みは大会に入賞することを目指して、日々みんなと頑張っています。

僕たちは他の部活動と違い、明確な練習時間は決まっておらず、講義が空いている時間にもバドミントンをするのができ、好きな時間に友達と遊び感覚でスポーツを楽しむことができるのもサークルの良いところだと思っています。また、土曜日には試合を意識した実戦練習を行っているため、大会では優勝経験もあり、充実したサークルです。

今年入った新入生はみんな初心者なので大学から部活に入ろうと考えている人はバドミントンサークルに入ってみませんか？毎週土曜日の昼に活動しているので興味のある人は是非体育館に来てください。

硬式テニス部

部長 長谷川 純也さん（三重・四日市南高校出身）



私たち硬式テニス部は、部員55人という大人数ですが、学内コートを使い、うまく授業の空き時間を利用し練習しています。休日には、長浜ドームを利用しできるだけ多くの練習時間を設けています。初心者への指導はもちろん、経験者は試合を中心とした練習をするなど、レベルに合わせて楽しく練習しています。

さらに、今年から経験者が増えたこともあり、他大学との練習試合を増やし、市の大会への出場、さらには関西学生テニス連盟に登録しレベルの高い大会への出場も視野に入れています。

最後になりましたが、硬式テニス部は個性溢れるメンバーがそろい、とても雰囲気がよく楽しい部活です。長期休暇には、合宿を行なうなど部員が打ち解けあう場も設けます。テニスに興味のある方、男女問わず大歓迎です。是非、一度コートに足を運んでみてください。

合唱部

部長 田村 真奈美さん（京都・西城陽高校出身）



はじめまして、こんにちわ、昨年新設した合唱部です。知らない方も多いのではないのでしょうか。現在、合唱部は男声7名、女声9名の計16名で活動しています。そのほとんどが未経験者です。中には留学生の方もいます。

昨年はできたばかりということもあり手探りの中、基礎練習を中心として命洗祭・卒業式・入学式と、あまり活躍の場がありませんでした。しかし、今年は長浜音楽協会にも加入し、B7など様々な舞台発表に参加していきます。また、バランスがよければコンクールにも参加していきたいと考えています。

合唱の醍醐味は「Harmony」、声の調和、人との調和です。合唱は一人ではできないことです。仲間との信頼関係が一番大切なのです。あなたもハモる感動を一緒に味わってみませんか？

産官学共同研究・事業開発センター(以下産官学センター)。大変長い名前ですね。大学事務室と同じフロアに産官学センターはありますが、きっと学生の皆さんには馴染みが殆どないと思います。そこで今回はあるエピソードを通じて、産官学センターを少しでも皆さんにご理解いただきたいと思います。

少し前のある日、年配の小島さん(仮名)が産官学センターに来てくれました。普段は穏やかな感じの小島さんですが、この日の小島さんはそれこそ輝くような笑顔でやって来ました。実は小島さんはある環境系バイオベンチャーの社長さんで、独力に近い状態で環境浄化力に大変優れた細菌製剤を開発しました。この製品に小島さんは大変自信を深め、それを各地で実証して回ったものの、データが不揃いだとか、公的な証明がないといった理由で今ひとつ事業が拡大していなかったのです。

ところが、本学の向准教授と共同研究を実施したところ、最近になって大企業を含め引き合いが来るようになったということでした。製品としては同じであっても、長

浜バイオ大
学という公
平な機関に
よる説得力
のあるデー
タにより注
目度が大き
く向上した、
ということ
でした。



ビジネスメッセでの
本学バイオネットワーク事業紹介

このよう
に、産官学センターでは潜在的には優れた
バイオ技術を持ったベンチャー企業、個人
起業家の方たちと、優れた研究能力を持つ
本学の先生方とを結びつけ、それぞれが単
独では達成し難いような事業成果を生み出
すお手伝いをするのが業務の大きな柱に
なります。

またこうした過程で、産官学センターは
多くの地元有力企業やバイオベンチャーと
も繋がりを深めています。就職が気になる
学生の皆さんは企業ブランド力がある企業
への就職をまず念頭に置くのもひとつもど
かと思えますが、地元有力企業やバイオベン
チャーの中には全国的に名前が通った企業
を上回る業績または遣り甲斐のある仕事が
待つ企業があるということ。これは頭の片
隅に置いておいて欲しいものです。

「ライフサイエンスの統合データベース整備事業」に参画

文部科学省が進める平成
19年度の「ライフサイエン
ス分野の統合データベース
整備事業」において、本学
が統合データベース支援プ
ロジェクトに、東京大学、
お茶の水女子大学とともに
参画することになりました。

これは、ライフサイエン
スやバイオ産業に従事する
研究者や技術者による高度
な研究開発を支援する、効
率的な統合データベースを
構築するもので、大学共同
利用機関法人情報・システ
ム研究機構を中核機関とし
て推進するプロジェクトで
す。研究者レベルは東京大
学、大学院生レベルではお
茶の水女子大学で、本学は
学部生レベルでの人材育成
の実践を担います。これは
ゲノムアノテーションを実
習に取り入れてられている本学の
教育実践が評価されたもの
です。

この研究には、本学から
池村先生、白井先生、大島
一彦先生、高橋先生、清水
先生が参画します。

長浜バイオ大学と連携する
バイオ産業クラスターの形成現況

ライフサイエンス	医薬
プロテオジェネシス	フロンティアファーマ
長浜バイオラボラトリー	日本バイオ医薬
バイオセラピー・メディカル ワンセル	他 8社
他 2社	
アグリバイオ	健康食品・エステ
シードライフテック	フィジカル
日本アドバンスアグリ	他 2社
他 6社	
エコロジー	その他
滋賀建機	サンオクト
小森バイオ	他 28社
関西オートメカニクス	
他 3社	

今回の研究室訪問は、高性能な計算機を使ってゲノムに潜む謎を解き明かす研究を続けている池村淑道先生を、生体分子情報学研究室に訊ねました。

Interview 研究室訪問⑧

池村 淑道教授

●生体分子情報学研究室



●池村 淑道

大学では化学、大学院では物理学を専攻。卒業後は、ウィスコンシン大学医学部で研究員として生命科学を追究するなど、多分野の研究に携わる。現在は、文科省主催の「統合データベースプロジェクト」による若手人材の育成に力を入れ、スーパーコンピュータを用いたゲノムのDNA塩基配列の解析と、学生の教育に取り組む。京都大学理学研究科物理学専攻博士課程修了。国立遺伝学研究所進化学研究部門教授、総合研究大学院大学薬山高等研究センター教授を歴任。国立遺伝学研究所名誉教授・総合研究大学院大学名誉教授で、現職。理学博士(京都大学)。東京都出身。

遺伝子候補群のなから、環境保全や環境浄化、広い意味では「持続型社会の実現」に役立つ遺伝子を探求していくという取り組みをしています。その発見した遺伝子の候補群を、新たに構築するバイオデータベース「持続社会への貢献遺伝子データベース」として集積して、学生の事前入りで、世界へ発信できるようにサポートしていきたいと考えています。学生にとって、研究成果が形になることはやりがいになりますし、公開をすれば責任も伴いますので、貴重な経験になるでしょう。

ゲノム科学、ゲノム情報学、ゲノム進化学が専門ですが、どのような研究内容ですか？

ゲノムDNAの塩基配列に潜んでいる生物のさまざまな性質や生物種ごとの個性、その個性を持つ生物学的な意味やそれが出来上がった進化の過程などを、高性能な計算機を使って明らかにしています。例えば、ヒトゲノムは約30億個の塩基で構成されており、「ATCG」の4つの文字の羅列で表されます。それは新聞の朝刊に例えると、25年分にも及ぶと言われており、こうした膨大なデータを

「地球シミュレーション」という公的機関の「スーパーコンピュータ」に大

学からオンラインアクセスして解析し、従来の方法では気付けなかった生物の多様な特徴を研究しています。ゲノム配列の解読の進んだ、微

最近はどういうことに取り組んでおられますか？

文部科学省が、国内のバイオ分野の主要なデータベースの統合を進める「統合データベースプロジェクト」を開始しました。そのデータベース作成などの実務を担当する人材の育成の担当校に、バイオ大学が選ばれました。これによって、日本のバイオデータベースの人材養成に関して中心的な役割を担えるようになりまして、教育面の強化を試みているところです。

地球上にある微生物の99%以上は培養ができません。未開拓なゲノム資源として大量に残されてきました。多数の微生物の生息する環境から、培養をせずにゲノムDNAの混合物を回収して、大量のゲノム断片をクローニングし塩基配列を解読する研究が、世界各国で進行し、配列がデータベースに収録されています。その大量な配列から100万を越える遺伝子の候補が予測されていますが、その大半は機能が未知のままに残されています。我々の研究室では、学生自身が、その大量な

最後に、学生へのアドバイスをお願いします。

研究はチームワークですが、「誰かが何かやってくれる」という考え方は、成長は望めません。「協調性」と同時に、「他人依存型」から脱皮することの重要性に、学生自身が気付いてほしいと思っています。バイオ大学には、実学を中心とした素晴らしい学習環境があるので、例えば4年次の卒業研究でいい結果を出すことを目標にするだけでなく、研究を通して、就職あるいは進学した先で役立つような経験を、積極的に積んでほしいと思います。

2007年度入試結果と2008年度入試

2007年度入試の結果

全体志願者は、前年比94%と若干の減少となりました。「大学全入時代の到来」と言われた受験人口の減少、特に浪人生数の減少と女子を中心とした資格分野志向が、主な減少の要因です。結果の特徴としては、推薦と前期入試での早期募集を重視したため、2月中旬の中期入試の志願者が大きく減少しました。また、新たに導入した3教科型のセンター利用入試は、私大専願受験生も受験可能となったことで、前年比200%を超える志願となりました。さらに、1期生の好調な就職・進学状況とJR北陸線改善により北陸方面からの志願者が増加しました。志願倍率では、依然6倍超と高い結果となっていますが、国公立大・難関私大の同系分野が広き門となっていることから、合格者数を増やしたため、実質倍率は前年平均2.0倍から平均1.7倍の結果となっています。

2008年度入試に向けて

08年度は、近年に近く18才受験人口が大幅に減少する年となります。各大学では新学部・学科設置や新入試導入など、学生獲得に向けての様々な施策が行われます。本学でも「AO(理科実験評価型)入試」「大学入試センター利用・中期」「一般公募制推薦(総合・専門課程募集枠)」「一般入試・前期(生命情報特別枠)」の新方式導入や複数回受験での検定料減免、入試成績優秀者への奨学制度を実施します。

また、入試方式の工夫とともに、本学教学の具体的な成果である1期生の就職・院進学の高い実績と教員の期待される高度研究の取り組みを、各種広報媒体や説明会でよりアピール、浸透させていくことで引き続き受験者獲得を図ります。

リレーエッセイ バックステージ

分子遺伝学研究室
和田 修一先生

自分が大学生だった頃、卒業研究を始めるまでは、大学の先生は冷徹なまでに研究に打ち込む求道者で、遠い存在だと感じていた。四年生で研究室に配属されると、指導教官と日常的に接するようになり、素顔を見るような機会も出来た。冗談を言うこともあれば、機嫌が悪いこともある。家族が居て、親としての顔を覗かせることもある。教官といえどもごくあたりまえに一人の人間なのだと思った。やがて大学院生になり、研究を仕事とすることを希望するようになると、今度は教官が何に悩みながら研究室を運営しているのかに興味を持ったが、直接それを確かめたことはなかった。

今では自分が研究室を運営する立場だ。この大学の教員の内情に、関心を持っている学生も居るかもしれない。大学に着任して最初の冬、研究室を準備していた頃の出来事を書いてみようと思う。

ある夜、大学の同級生から電話がかかって来た。生物学の世界にはいない友人だ。久しぶりだったので、就職の報告をした。相手が業界の人間ではない気楽さで、つつい弱気なことも話してしまう。

「…まあ勝手だね…ポストクの時は早くポストクに就きたがり、職を得たら得たでラボに物がな

い、お金がない…。文句ばかり言うなって感じ。でも何だか自信がなくなって来たよ…。来春に卒研究生がやって来ても、このままでは機械も試薬も足りないと思う。他のラボでは楽しく実験しているのに、うちの学生はガランとした部屋で手持ち無沙汰、なんてことになったら、どうしよう?」「君ねえ…」呆れた様子だ。「足りないものがあるなら、周りの人に泣きついてでも、取り引きしてでも、何とかして用意するのが仕事ってものでしょう?自分に研究費がないことか、卒研究生が来ることか、始めからわかっていることじゃないの?ほんと甘えているなあ」

一喝された。その通りだ。覚悟すべきことを、他人から聴きたかっただけなのだ。その点で、始めの台詞は我ながら頼りなく、友人の返事は過剰なほどに優しくかった。

学生には想像しにくいことだろうが、研究室は始めから物に溢れている訳ではない(遠慮がちに付け加えれば、教員も始めから教員な訳ではない)。上の会話以来、こちらが泣きつくよりも先に手を差し伸べて頂くようなことが続いて、今では多くの実験が可能になっている。周囲の方々に感謝するばかりだ。愚痴は封印。前を見て研究しようと思う(卒研究生のみんな、試薬を大事に使おう!)

